

事例番号:280288

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第一部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

膣分泌物培養検査

妊娠 10 週: B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) (1+)

妊娠 28 週: GBS (1+)

妊娠 32 週: GBS (3+)

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 6 日

12:00 破水

妊娠 39 週 0 日

1:15 高位破水、陣痛開始のため入院

4) 分娩経過

妊娠 39 週 0 日

2:50 子宮底圧迫法により経膣分娩

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数: 39 週 0 日

(2) 出生時体重: 2800g

(3) 臍帯動脈血ガス分析値: pH 7.315、PCO₂ 34.1mmHg、PO₂ 21.6mmHg、

HCO₃⁻ 16.9mmol/L、BE -8.2mmol/L

(4) Apgar スコア: 生後 1 分 9 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生: 実施せず

(6) 診断等:

生後 5 日 退院

生後 12 日 不機嫌な様子、発熱あり、救急外来受診、全身強直間代性痙攣出現、呼吸停止あり、高次医療機関へ搬送
血液培養検査にて GBS 陽性、細菌性髄膜炎

生後 13 日 髄液培養検査にて GBS (3+)

(7) 頭部画像所見:

生後 33 日 頭部 MRI にて両側大脳半球は著明に萎縮、皮質下に中小の嚢胞が多発、各所で陳旧化した出血所見を認める

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 1 名

看護スタッフ: 助産師 2 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、GBS 感染症により、髄膜炎および敗血症性ショックとなったことであると考ええる。

(2) GBS の感染時期および感染経路は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

(1) 妊娠中の管理は一般的である。

(2) 妊娠 38 週 6 日 13 時に妊産婦より破水を疑う連絡があった際、様子を見るように指示をしたことは、選択されることは少ない。

2) 分娩経過

(1) 入院時の対応(パップテスト測定、分娩監視装置装着)は一般的である。

(2) GBS 陽性妊産婦に対しアンピシリンナトリウムを投与したことは一般的である。

(3) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

3) 新生児経過

- (1) 退院までの新生児管理は一般的である。
- (2) 生後 12 日に症状が出現し受診した際の対応(血液検査、細菌培養検査施行等)、痙攣・呼吸停止に対する対応(鎮静剤投与、バッグ・マスクによる人工呼吸、胸骨圧迫、気管挿管)、および高次医療機関へ児を搬送したことは一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) B 群溶血性連鎖球菌(GBS)スクリーニング^gは妊娠 33 週から 37 週に実施することが望まれる。

【解説】本事例では、妊娠 10 週、28 週、32 週の膈分泌物培養検査にて GBS が陽性であることを確認しているが、「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」では、妊娠 33 週から 37 週での実施を推奨している。

- (2) 妊産婦から、破水が疑われる症状があると連絡があった場合に、確認すべき事項や受診の基準等を、医師、看護スタッフで検討しておくことが望まれる。
- (3) 観察した事項および実施した処置等に関しては、診療録に正確に記載することが望まれる。

【解説】本事例は子宮底圧迫法の実施時間、実施回数等の記載がなかった。観察事項や妊産婦に対して行われた処置は詳細を記載することが必要である。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

- ア. 新生児 GBS 感染症の発生機序の解明、予防方法、早期診断に関する研究を推進することが望まれる。
- イ. 地方自治体に対して、妊娠中の B 群溶血性連鎖球菌スクリーニング^gを、「産婦人科診療ガイドライン」で推奨する時期に公的補助下に一律に実施できる制度

を構築するよう働きかけることが望まれる。

【解説】「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」では、膣分泌物培養検査（GBS スクリーニング）を妊娠 33 週から 37 週に実施することを推奨しているが、検査費用の公的補助制度によって同時期の実施が難しい地域がある。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。